

## プラント用ノンストップコントロールシステムの販売開始について

- 株式会社ジャパンエナジー(本社:東京都港区虎ノ門二丁目、社長:高萩光紀)のコンピュータシステム関連子会社であるセントラル・コンピュータ・サービス株式会社(本社:東京都江東区亀戸六丁目、社長:山田修身、以下「CCS」)は、このたび、株式会社フォークス(本社:東京都台東区下谷二丁目、社長:川崎善之助、以下「フォークス」)と提携し、米国VMIC社(注)製コンパクトPCI仕様のCPUボードを複数枚使用した「プラント向け完全ノンストップコントロールシステム」を開発し、本年7月から同社とともに本格販売を開始いたしました。  
(注) VMIC社(本社:米国アラバマ州)は、米国の防衛・航空・宇宙・産業分野において、CPUボード、多くの機器間をインターフェースする通信ボード、I/Oボードで実績を持つボードメーカーで、CCSは同社の日本における総輸入元です。
- 本システムは、複数のCPUボード、複数の電源および各種インテリジェントI/Oボードから構成されており、稼働中においても括線挿抜(Hot Swap)してメンテナンスすることが可能です。これまで24時間稼働の工場などにおいて、システムを停止することなくメンテナンス等を行うには高価な専用システムが必要でしたが、今後は、本システムを導入いただくことにより、比較的小さな投資で対応できることとなります。
- 本システムの主な特長は次のとおりです。
  - システム稼働中においても括線挿抜(Hot Swap)してメンテナンスすることが可能。
  - 動作しているマスターCPUボードの制御権を任意に、もしくは自動的にスレーブCPUボードに移行させることが可能。
  - システムの動作に影響を与えずにCPUボードを交換することが可能。
  - システムの動作に影響を与えずにI/Oボードを交換することが可能。
  - 本システムの共同販売にあたり、CCSは、VMIC社のCPUボードのサポートを行ってまいります。一方、フォークスは、本汎用システムをベースにユーザーの仕様に応じたハードウェア、ソフトウェアのカスタマイズやサポートなどを行ってまいります。

### ● (参考資料)本文中の用語説明、CCSとフォークスの概要

#### 1. 用語説明

##### 1. コンパクトPCI

パソコン等に使われている電子回路基板が使用している国際標準の規格(PCibus規格)を工業用途での使用に耐えられるように基板サイズやコネクタ等に変更を加えた新しい国際標準の規格。

##### 2. CPUボード(マスターCPUボード、スレーブCPUボード)

コンピュータの中央処理装置<Central Processing Unit(CPU)>を搭載した電子回路基板。CPUボードを複数使用する場合に正常時に制御権を持つCPUボードをマスターCPUボードと呼び、制御権をもたないCPUボードをスレーブCPUボードと呼ぶ。

##### 3. I/Oボード

コンピュータが外部機器(たとえば各種センサーや表示機器)との間で電気信号の入出力<Input/Output(I/O)>を行う際に使用する電子回路基板。

#### 2. CCSの概要

- 社名: セントラル・コンピュータ・サービス株式会社
- 本社: 東京都江東区亀戸六丁目
- 社長: 山田 修身
- 資本金: 270百万円(当社: 90%、日鉱金属: 5%、他)
- 設立: 1970年4月
- 事業内容: ビジネス系コンピュータシステムの開発・運用・保守・管理・コンサルテーション、科学環境・技術系コンピュータシステムの設計・解析・開発、アウトソーシング事業、印刷・封緘、OA機器販売等
- 売上高: 161億円(2002年3月期)
- 従業員数: 約670名
- Webサイト: <http://www.ccs.co.jp>

#### 3. フォークスの概要

- 社名: 株式会社フォークス
- 本社: 東京都台東区下谷二丁目
- 社長: 川崎 善之助
- 資本金: 200百万円

5. 設立:1986年1月
6. 事業内容:産業向けリアルタイムシステムの企画・開発・販売、各種ネットワークシステムの企画・開発・販売等
7. 売上高:8億円(2002年3月期)
8. 従業員数:約30名
9. Webサイト: <http://www.forks.co.jp>